



南雲 和夫

湯沢町再生の対策を問う

町再生プロジェクトチームなるものを編成する考えはないか。

町長答弁

時は民間主導であり、改めて町としてプロジェクトを編成する考えは持っておりません。

17年度は村山町政4期16年の総決算にあたります。今、町が抱えている問題を提起し、その対策と方向付けを明示され早急な決断と実行するのが責務と考えます。

質問

町の定住人口増加策と経済活性化策は相関関係にあり、住民生活の安定は町の財政安定につながるものです。定住人口増加策についての具体的な考えについてまた、施政方針の中にある町づくりを言葉でなく、具現化し形として表現していく必要があります。町の将来、夢や希望を描いていく中で町民との意識の共有や自立協働へのコンセンサスが得られるのではないかと、行政のあるべき仕事として、

一 般

質 問

質 問

町行財政計画、運営にロ一プウェー事業会計が大きな負担になってきている。ロ一プウェー事業所より職員を10名位、庁舎にもどし、

質問

人口減少が進んでいることは周知しているが、一方ではマンション定住者が40名と年々増加してきている。時代の変化、価値観の変化、移向を的確にとらえ町の資源の有効活用を図る中で、観光だけでなく経済活動がより活性化し、雇用の確保ができる環境創りの取り組みに、今まで以上に努力していかなければならないと考えている。

町長答弁

町全体の課題とすることで職員の意識改革や民営化に向けての検討、準備ができる。一般会計より繰入れ補正を行わないことは町としての命題であり、併行してその対策と、腹づもりを伺います。また指定管理者制度の導入は都市施設公社以外には考えられないか、他施設にも考えられるところがあるとしたらどこか、手順も含め考えを伺います。

学校を除くほとんどの施設が対象と思われませんが、その設置目的を損なうことなく、適切な管理、運営を確保するということが重要であります。直営の施設は関係しませんが、今後の他市町村の取り組みの成果を検証しながら導入については検討してゆきたいと考えています。公社については17年度中に公募選定をしてゆく、ロ

ロ一プウェー事業運営については、今後の考え方を模索してゆきたい、収支手堅い予算を組んでいるので心配はないと考えている。

質問

事務事業の見直しをし、それを実行するにあたり、検討委員会や町長車運転の業務委託が廃止となっていたが、復活している。共に痛みを分かち合う改革がこれからの町づくりの反映につながると言っているが、三年計画のスタートとして、また行政サービスが低下していく中での説明責任、順序、手法の不備を危惧します。職員の意識改革を行う上では、課所を超えた五才き

町長答弁

さみの職員の提案制など、行財政改革や町づくりにおける提案が生かされるよう、その取り組みについての考えがあるか伺います。

事業の見直しを行う中で意識改革は進んで来ている。サービスを低下させないことを優先し考えての結果であり、理解を願うものがあります。提案、提言をいただくということは大事ですので、対応も含め検討してゆかなければいけないと思っています。



指定管理者制度の導入で公募が予定されている都市施設公社（カルチャーセンター）